

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	臨床遺伝「つるまい遺伝塾」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師（歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等も聴講できる）						
修業年限（期間）	医師は3年以上、その他は制限なし						
養成すべき人材像	遺伝医学と遺伝カウンセリングの高度・先進的な知識・技術をもち質の高い遺伝医療を提供する人材。特にがん遺伝子パネル検査エキスパートの中でゲム情報に基づくがん個別化医療を実践し、未発症者のサーベイランスや先制医療等の予防医療にも精通し実践する人材。医師は日本人類遺伝学会認定臨床遺伝専門医。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> 臨床遺伝専門医の取得を目的とする医師は、自ら担当または陪席した遺伝カウンセリング20例以上（周産期、小児期、成人期、腫瘍の各領域を含み、3症例以上は自ら担当）のレポート提出で修了認定。 臨床遺伝専門医の取得を目的としない医師及び医師以外の履修生には、希望があれば修了認定を行う。「つるまい遺伝塾」主催の系統講義12回のうち2分の1以上の受講及び「つるまい遺伝塾」6回以上の出席により認定する。 						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> 「つるまい遺伝塾」では遺伝カウンセリングを担当した医師による症例提示と検討会を毎月オンライン開催する。患者情報を扱うため3省2カ国に準拠する。 遺伝カウンセリングは名古屋大学病院遺伝カウンセリング室で認定遺伝カウンセラーまたは臨床遺伝専門医同席で対面で行う。担当症例を「つるまい遺伝塾」で発表。 系統講義は「つるまい遺伝塾」主催で毎月オンラインで開催する。 系統講義は系統的な臨床遺伝学に加えて全ゲム解析を含めたがんの臨床遺伝学の講義を含む（全12コマ）。臨床遺伝専門医認定試験のレベルを目安にする。【講義内容】臨床遺伝学の基礎知識、染色体の構造と染色体異常、体細胞分裂・減数分裂、変異、DNA損傷修復、エピジェネティクス、メンデルの法則、顕性遺伝・潜性遺伝、ミトコンドリア遺伝、X連鎖遺伝、遺伝率、集団遺伝、家系図の描き方、カウンセリング法、出生前着床前診断、遺伝学の歴史、がん遺伝子パネル検査、サーベイランス等。 						
がんに関する専門資格との連携	臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会）、遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> 臨床遺伝専門医の資格取得を目指すコースである。本コースでは周産期・小児など本来は腫瘍を専門としない履修生が腫瘍に関連する臨床遺伝学のより高度・先進的な知識・技術を学ぶことができるのが特色である。 講義をオンライン化してオンデマンド配信することで参画大学の医師を中心に、広く東海地域の医療者が参加できる。 実症例の検討会によってより実践的な遺伝医療の教育ができる。 看護師、薬剤師、認定遺伝カウンセラー及びそれを目指す人材、医療ソーシャルワーカーをはじめ遺伝医療のチーム医療を担うさまざまな医療職が参加できる。 						
指導体制	名古屋大学附属病院ゲム医療センター及び臨床遺伝専門医（担当15名）・指導医（2名）・認定遺伝カウンセラー（3名常勤）が運営の中核となる。						
修了者の進路・キャリアパス	臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会）、遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会）を取得して、がんゲム医療連携病院をはじめ地域の医療機関で、広く臨床遺伝に従事しつつ、がんゲム医療と個別化医療の推進・啓発に貢献する。						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	2023年4月東海3県で専門医は約160名であるが、そのうち遺伝性腫瘍のカウンセリングを受入れる専門医は20名に過ぎない（学会HPより）。遺伝性腫瘍にも十分対応している専門医の養成を目指す。毎年の新規受入れ目標を8名と設定し、今後5年間で医師40名を受け入れる。さらに、本コース修了者の認定試験合格率70%を目指す（2022年度全体の合格率54%）。						